



## 平成28年度初期臨床研修医マッチング結果について

茨城県医師臨床研修連絡協議会 会長 山口 高史

(独立行政法人国立病院機構水戸医療センター院長)

平成28年度の初期臨床研修医のマッチングは、昨年より1名増加の156名となり、3年連続過去最多の研修医とマッチングすることができました。また、マッチ数でも昨年同様全国14位という好成績でした。それに加え、従来希望者のなかった研修病院にも初期研修医がマッチし、研修希望のなかった病院が前回より3病院減り、平準化する傾向が見られました。また、県央、県北により多くの研修医がマッチし、地域的にも平準化する傾向が見られました。これは医師不足の当県にとって、嬉しいかぎりでございます。

一方、後期研修では日本専門医機構の取り組みが見直され実施が1年延期されましたが、再来年度の施行に向けて再構築されつつあります。また、プログラムや認定条件、指定条件なども明らかになりつつあります。まだ流動的な部分は多少ありますが、これらは決して初期研修と切り離されたものではなく、今後、初期研修対象者がどこで初期研修をしたらよいかということを考えるうえで非常に重要な要素となります。

教育病院の皆様も、初期研修から後期研修にスムーズに移行できるような配慮が今まで以上に必要となると思われるので、本県の初期臨床研修環境をよりよく整備するとともに、後期研修への移行をよりスムーズに行えるよう関係各位のご協力をお願いいたします。

### 臨床研修医マッチングの実績状況

単位：人

	平成28年度						平成27年度					
	募集定員			マッチ者数			募集定員			マッチ者数		
	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院
全国	11,195	4,854	6,341	8,906	3,806	5,100	11,052	4,842	6,210	8,687	3,703	4,984
茨城県	215	98	117	156	82	74	211	98	113	155	75	80

## 平成28年度茨城県臨床研修病院合同説明会を開催します！

医学生の皆さんの情報収集の場を提供するため、茨城県の臨床研修病院が一堂に会し、平成30年度採用向けの合同説明会を開催します。全国屈指の充実した指導体制と魅力あるプログラムをご紹介します。皆様のご参加をお待ちしております！

**日程** 平成29年3月12日(日) 13:00~17:00**場所** イースホール(つくば市研究学園5-19 イースつくば2階)**内容** ●各病院プレゼンテーション  
●病院ブースによる個別相談 等**対象** 医学生**申込方法**

- FAXまたはE-mailにてお申し込み  
「合同説明会参加希望」と明記のうえ、下記あてお申し込みください。  
※記入事項：「氏名」「ふりがな」「大学」「性別」「学年(4月からの新学年)」「出身都道府県」
- Webにてお申し込み  
茨城県地域医療支援センターのホームページから、いばらき電子申請フォームによりお申込みください。



# 「この地域が医療過疎から少しずつ変わっていくことを目指して」

外科医であり、病院事業を経営する特別職の事業管理者に就かれている田淵崇文先生に、県北地域の医療事情や北茨城市民病院の取り組みについてお話を伺いました。

…北茨城市近辺の医療事情についてお聞かせください。

地域医療は、いま非常に難しいです。北茨城市だけではなく、医療過疎は日本全国の問題です。原因の一つは新しい臨床研修制度の導入がきっかけだと思うのですが、どうしても都会集中型になっている。もう一つは、専門性がかなり細分化されていることです。医師の数はあったとしても専門医になり過ぎているから、患者さんから「専門以外は診てくれない」というような苦情が来るわけです。

この地域で言えば、医師の数は平成27年の4月で人口10万人に対して約80人弱。これは全国平均の3分の1ぐらいです。高萩市も同じくらいです。北茨城市には3病院がありますが、うち一つは精神科なので一般病院としては市民病院、瀧病院の2病院です。開業医は14医院ありますが、一番最近開業したのが平成23年頃ですから、もう5年間新しく開業した先生がいないのです。この地域の医師の平均年齢はもう65歳を過ぎています。高齢になれば今後閉院せざるを得ないわけですが、そこに二代目とか新しい先生がなかなか来ない。さらに看護師も非常に少なく、全国平均の4割ぐらいしかいません。そうすると、今後この地域はどうなるのか。民間病院が閉院したり医師の高齢化が進むと、残るのは市民病院です。そうならないように、なんとか地

北茨城市民病院

事業管理者

田淵 崇文



域住民の健康を守ろうと思っているのがこの病院の取り組みであり、私の考えでもあるのです。

## ●医学生、研修医、国境なき医師団の医師を支援。

…市民病院は若い先生も充実しているのでしょうか？

あくまでも県からの派遣された方しか、若い先生達は来ないです。やはり若い先生方はどうしても都会で研修したいと考えてしまう。魅力的な病院にするにはどうしたらよいか考えなくてはなりません。現状でも医師を集めるために北茨城市は医学生に奨学金を出していますが、なかなかこちらで就職をしてくれないという問題があります。

…医師不足の打開策としてどのような取り組みをされていますか？

筑波大学附属の家庭医療センターもその一つで、筑波大学の教育ステーションとして外来診療や在宅診療、へき地巡回診療などを行い、地域医療実習の場となっています。やはりこれからは教育体制をしっかり構築しないと、若い医師も看護師も来てくれません。大学の支援があつてこそ、できることだと思います。

さらに門戸を開こうと、国境なき医師団に参加される医師の支援も検討しています。参加される先生方は、専門性を持たずにいろんな患者さんを診ているので、医療過疎地にとってもメリットがあるのではないかと考えています。先生方が海外で活動されている間をどうサポートしていくかを考えながら、働きやすい環境をつくっていきたいと思っています。

## ●「とにかく何でも見てやれ、断るな」が原点。

…先生の経歴をお聞かせください。

香川県の高松市出身です。東京医科大学を卒業し、昭和50年に当時の東京医大霞ヶ浦病院に赴任したのが茨城県に來たいきさつです。私の父は、軍医であり開業していました。患者さんには貧しい人も多く医療費の代わりに魚を持ってくる人もいましたが、父はそれを医療費として受け取っていました。夜間はよく往診に行っていたのを覚えています。代々医師でしたから、私も自然と目指したのかもしれません。茨城に來た頃は、まだ筑波大学も開学していませんでした。医療環境はブアで、私の上司は、「とにかくなんでも診てやれ、断るな」と言いました。それが、私の原点になっています。またその精神は、父の姿に重なる部分もあります。

わが国の医療は、そういった何でも診る診療所の医師の献身的な努力により地域住民を守ってきた歴史があります。当時より医師も増え地域医療はどんどん高度になっていますが、逆に、何でも診てやろうという精神が欠けてきたように思います。

## ●地域の中核病院として北茨城市民病院を維持していく。

…今日まで医師として取り組んで來られた、やりがいや生きがいは？

やりがいや生きがいは、年代によっても違ってきます。若い頃はとにかく不安でした。医師ライセンスは持っていても、何もわからない。だから、早くわかる医師になりたいと思いました。その次は早く手術がしたいと思い、大学での自分の研究にやりがいを持った時代もありました。また私の専門は外科であり、手術がメインにはなりますが、術前術後管理や家族のフォローもすべて含めて外科医の仕事です。私は現場に入って、段々信念というようなものを培ってきました。生涯外科医でありたいと思っています。そして今の生きがいは、この地域が医療過疎から少しずつ変わるよう目指し、また地域の中核病院として北茨城市民病院を維持していくために、頑張っていることです。

…若手医師や医学生にメッセージをお願いします。

医師になって良かった事は、大学だけでなく多くの仲間ができた事です。偉そうなことは言えないのだけれど、やはりいろんな人と付き合うことが大事です。医師、看護師、患者さん、家族、いかに多くの人たちとつき合えるかということで、その人の価値は決まってくると思うのです。木を見て森を見ずではなく、大きくものを見てもらいたい。多くの患者さんを診て、病気だけでなくその人となりを見て、大きく成長して欲しいのです。物事を広く捉え考える能力を培ってから、専門医に進んだ方がいいと思います。また、良いドクターというのは、良い指導者についています。良い指導者の元で学ぶのも、非常に大切な事です。当院にも、たくさんの若手医師が来てくれることを望んでいます。

## 病院紹介 JAとりで総合医療センター コーナー (茨城県取手市本郷2-1-1)



院と存じます。小児救急も実績があり、年間10,000人を超える小児がERに来院します。当院は、ベッド数も414床の中規模病院であり、上級医と研修医との関係も緊密で、日直も上級医と組んで当直業務を行い、直接の指導を受けることになります。常勤医も研修医も多すぎる600床以上の大規模病院では経験できない2年間になると思います。ぜひ、多くの方のマッチングを期待します。(院長 新谷 周三)

当院は、茨城県最南端の取手市、都内への通勤圏に位置し、茨城県南部と千葉県北西部の53万人を医療圏とする救急基幹病院、また、地域医療支援病院として機能してきました。昨年度(平成27年度)は、414床、常勤医師95名(研修医10名を含む)、外来1,264人/日、平均在院日数12.8日、救急患者数(夜間休日)24,888人/年(うち小児10,068人)、救急車数4,354台/年。現在、初期研修医は、マッチング、東京医科歯科大学からのたすき掛けを含めて10名です。救急は北米型のERで、軽症例から重症例、内科系から外傷系・CPAまで、多様性に富んだ症例を経験でき、初期臨床研修には最適な病

## 研修医リレーエッセイ

総合病院水戸協同病院

初期臨床研修医 伊藤 惇

2015年4月に水戸協同病院での研修医生活を開始して以来、地元や全国各地から集まった同期と非常に充実した毎日を送っており、実践力がついてきたと感じます。

当院では、救急当直や外来で自分が担当して入院した患者さんに対し、担当医として入院中も継続して治療に関わります。また、臓器別の垣根なく、内科の入院は全て総合診療科チームが担当するので、複数の問題を内科各スタッフと同時に見られます。診断・治療方針に関しては、自分の考えを述べた上で、上級医から絶えずフィードバックを頂き、退院調整や、退院後のフォローまで一連の流れを経験できます。コミニカルの方に支えられ、退院に向けてはソーシャルワー

カーの方と共に本人・家族と話し合います。このシステムにより、患者さんには安全・適切で総合的な医療を提供できると実感しています。



さらに当院での地域研修では、奄美大島の救命センターで一次から三次までの幅広い救急研修を経験することができました。私はさらに、週1回、船での離島往診にも同行することができました。

私は充実した研修を受けられる当院で後期研修も受けたいと思っています。興味を持っていただけた方がいましたら、ぜひ一度見学にいらしてください！



# 総合的診療を学ぶ特訓ゼミ 開催報告

## 【第1シリーズ】

**日程** 平成28年10月1日(土)  
**場所** 大崎ブライトコアホール  
 (東京都品川区)  
**対象** 全国の医学生

**内容** 講義 茨城県地域医療支援センター 特別講師 徳田 安春氏  
 北茨城市民病院 事業管理者 田淵 崇文氏  
 生きいき診療所・ゆうき 院長 荒井 康之氏  
 筑波大学附属病院 総合臨床教育センター 講師 小川 良子氏  
 筑波大学 医学医療系 教授 野口 雅之氏  
 グループスタディ

## 【第2シリーズ】

**日程** 平成28年10月29日(土)  
**場所** みと文化交流プラザ  
 (茨城県水戸市)  
**対象** 全国の若手医師・医学生

**内容** より専門診療にフォーカスしたグループ別実践トレーニング  
 腹部救急診療トレーニング 富山大学附属病院第三内科 三原 弘氏 ほか  
 胸部疾患カンファレンス 茨城東病院 院長 齋藤 武文氏 ほか  
 感染症カンファレンス 小原病院 副院長 大石 毅氏 ほか

## 【第3シリーズ】

**日程** 平成28年11月12日(土)～13日(日)  
**場所** オーシャンビュー大洗  
 (茨城県大洗町)  
**対象** 全国の若手医師・医学生

**内容** 臨床推論8番勝負  
 県内医師を講師に症例に基づくグループワーク  
 茨城県立中央病院 循環器内科部長 美崎 昌子氏 ほか  
 講義 茨城県地域医療支援センター 特別講師 徳田 安春氏  
 Cornell University Richard Birrer氏

### 参加者からの声

- 地域医療が個性を生かせる場であることを強く実感できる内容だった。自分自身としても研修先で工夫するようにしていきたい。
- 普段、文字でしか診療法を学べていないので、実際に見ることができて勉強になりました。
- 様々な分野について少人数で話し合いながら勉強することができ、モチベーションが上がった。
- 全国から参加した参加者が皆志高く、良い刺激となった。
- 臨床推論8番勝負は、毎回驚くような診断・経過・治療を呈する症例を知ることができ、非常に面白く勉強になります。



## 茨城県からのお知らせ

### 平成29年度自治医科大学医学部 入学試験のご案内

自治医科大学医学部第1次試験を行います。  
 受験を希望される方は、下記により出願書類を提出してください。

#### 出願期間

平成29年1月4日(水)～1月18日(水) 午後5時必着  
 ※消印有効期限は1月17日(火)

#### 出願書類の提出先

〒310-8555  
 茨城県水戸市笠原町978-6 茨城県保健福祉部医療対策課  
 電話 029-301-3191(直)

#### 提出方法

書留速達郵便、または簡易書留速達郵便にて提出して下さい。

#### 第1次試験

学力試験 平成29年1月23日(月)  
 面接試験 平成29年1月24日(火) ※学力試験及第者のみ実施

#### 試験会場(両日とも同じ)

茨城県庁(茨城県水戸市笠原町978-6)

#### 第1次試験合格発表

平成29年1月27日(金) 午後1時

#### 第2次試験日・合格発表日

※第2次試験は、平成29年2月2日(木)に自治医科大学で実施します。  
 (第2次合格発表日 平成29年2月10日(金)午後5時)



## 茨城県の女性医師支援事業について

茨城県は、女性医師等が仕事と家庭を両立できる環境を整備するため、女性医師の総合相談窓口の設置や市町村ファミリーサポートセンターと連携した子育て支援を実施しています。また、「茨城県女性医師就業支援(働きやすい職場環境づくり)事業」を実施し、育児中の医師に対する勤務条件の緩和など、働きやすい職場環境を整備する医療機関を支援しております。

### (1) 女性医師就業支援相談窓口

**【連絡先】**  
 フリーダイヤル:0120-107-467(電話受付:月曜日～金曜日 9:00～17:00)  
 ※土・日・祝日はお休みです。  
 FAX番号:029-241-7468  
 Eメール:i-dr.support@au.wakwak.com  
 Tel:029-241-7467  
 〒309-0852 茨城県水戸市笠原町489(茨城県医師会)

### 【相談対応例】

- 出産・育児及び離職後の再就業に不安を抱える方へのアドバイス
- 市町村ファミリーサポートセンターと連携した保育支援
- 復職のための研修受入医療機関の紹介 等

### (2) 茨城県女性医師就業支援(働きやすい職場環境づくり)事業

#### 【補助対象事業者】

事業所の所在地が県内にあり、医療法(昭和23年法律第205号)第1条の5に規定する病院(独立行政法人国立病院機構及び国立大学法人は対象外)

#### 【補助対象事業】

医師が育児と仕事を両立できる働きやすい職場の環境整備について、以下の(1)～(3)に掲げる内容若しくは、その他医療機関の就労環境の改善に効果的であると知事が認めるもの。

区分	支援内容(例)
(1) 育児中の医師に対する勤務条件の緩和	・短時間正規雇用制度を利用する医師の代替医師を雇用するための人件費 ・育児中の医師に代わり、宿直等の対応をする医師の人件費 等
(2) 働きやすい職場環境の整備	・育児スペース確保のため、既存の部屋等を改装する費用及び備品購入費 ・市町村ファミリーサポートセンター・ベビーシッターの利用料 ・業務分担対応者(医師事務作業補助者等)への人件費
(3) 育児休業復職後のキャリア形成支援	・復職に係る臨床支援やスキルアップのための指導医手当

**【補助額】** 11,140千円(1医療機関あたりの補助対象経費の上限)×1/2=5,570千円(上限)

## 茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/ishi/isei/ishikakuho/top/index.html E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp